
黒奏物語

mika.

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

黒奏物語

【Nコード】

N9981C

【作者名】

mika.

【あらすじ】

これは主人公黒乃奇跡がある女子転校生に恋する物語である――

Prologue (前書き)

貴方は覚えているのだろうか…全ての出来事。思い出。悲しみ…

Prologue

ある日――

オレの名前は黒乃奇跡^{くろのきせき}。

オタクで引きこもりの高校生。強いて言うならばツンデレとかに興味がある。今日は転校生が来るそうだ。まあドウデモ良いけどね。

母「奇跡！遅刻するわよ！」

黒乃「はいはい、いつてきまーす！」

いつもの様に走って登校する。

走っていると、途中で捨て犬と遊んでいる女子高生がいた。遅刻するというのは、何してるんだ、俺。

黒乃「うちの高校と同じ制服……同じ高校か？　おい。」

話しかけるといきなり自分の世界が解けたみたいに、びっくりして飛び上がった。

女子高生「なっ……、驚かさないでよ！」

黒乃「悪い悪い、驚かすつもりはなかったんだ。何しているのかな、と思ってさ。」

すると、その女子高生は捨て犬の方に振り返る。

女子高生「ち、ちょっと可愛そうだな」と思っただけよ！別に可愛とか、そんなんじゃないんだからねっ！」

彼女は顔を赤らめながら、走って行ってしまった。

黒乃「……ツンデレ？」

しかも、その子はとても可愛かった。

しばらく、考え事をしていると黒乃はある事に気が付く。

黒乃「やべーこんな時間じゃねえか！遅刻だ遅刻！」

黒乃は学校へ走って行った。

これが2人出会いだった…

1話：クラスメイト

黒乃はギリギリ間に合った。

黒乃「さっきの子も来ているのかな…。」

どうやら俺はさっきの子に一目惚れ？してしまったのかもしれない。

...

県立RT高等学校——ここが俺たちが通う高校だ。

オレは1年C組のクラス。さっきも言ったが今日転校生が来る様子。

先生「黒乃！遅刻は程々にしろといったたる！バカタレが！」

黒乃（うるせーな。いつもギリギリ間に合ってるつーの。）

美香「今日はいつもより遅く来ましたね。どうしたんですか？」

この人は枝墨^{えだるい} 美香^{みか}（あだ名美香）。女子で1年C組学級委員長＆生徒会会長。真面目っぽく見えるがかなり強くて心強い。

カナミ「よう…黒乃…。」

このいつも眠たそうにしているのは姫桜^{ひめおう} カナミ（あだ名カナミ）。男子だぞ！。なかなか良い奴だ。親の遺伝子のせいでネコミミ付いてる。猫好き。

有希「あ、おはようございます黒さん。今日も晴れてますね〜」

この子は西園寺^{さいおんじ} 有希^{ゆき}（あだ名有希）カナミと同じで親の遺伝子のせいでネコミミ付いてる。天然で、とっても可愛い子だ。

黒乃「そうですね。この綺麗な蒼空でみんな笑顔になるといいですね。」

おもち「黒さん、転校生の紹介するので早く準備するように。」

カナミの大親友、望月 白叡（もちつき びやくえい）生徒会副会長。いつもは廃人として皆と頑張っているがこういうときは真面目。

美香「では転校生を紹介しまゝす。」
ガララ！

黒乃「あの子は！」

美香「渚 炎里さんです。」

炎里「ええと・・・初めまして…。な、渚 炎里ですっ／＼／」

黒乃「やっぱり…転校者だったのか…。どおりであんな可愛い子見た事な…ハッ！？」

炎里と黒乃の目が合ってしまった。渚は顔を赤らめてそっぽを向く。
黒乃「ありやりや…。」

有希「知り合いですか？」

有希が不思議そうに小声で話しかけて来た。

黒乃「ち、ちがいますよ。さっき登校中出会っちゃって…」

有希「友達になれるといいですね」

有希がニコツと微笑んだ。

この笑顔には勝てん。

おもち「どうやら黒さんと知り合い・・・シンデレか？部に招待してやるか…。」

先生「では炎里さんあいつの隣の席に座って下さい。」

黒乃↑あいつ

炎里「ツ…。は、はい…。」

由貴は黒乃の隣の席に座った。

黒乃「あ、貴方は今日の……。ここのクラスだったんですね。」
炎里はコクツとうなずいた。

炎里「……なんだろう。この不思議な雰囲気……。」

黒乃「……何？」

炎里「い、いや……何でも無いよっ。」

2話：休み時間

それから第一限英語が始まった。

先生「黒乃、この文の英訳は？」

黒乃「分かりません」

先生「こんな問題も分からののか。次からちゃんと予習しておけ！
では炎里。」

炎里「は、はい。それはです。」

先生「宜しい。」

… 休み時間。

結衣「あなたが新しく転校してきた渚 炎里さん？よろしくね。」

この子は1年E組の榛名^{はるな} 結衣^{ゆい}（あだ名結衣ちゃん）。明るくて元気な女の子。親しみやすく、友達も多い。

炎里「はい、よろしく・・・です。」

黒乃は炎里の照れている顔見てニヤリと笑う。

ラグナ「おいおい、黒さん何ニヤニヤしているんだよう。まあ確かにツンデレは可愛いけどさっ」

黒乃「付けんな。」

こいつは同じく1年E組の東野^{とあの} 楽那^{らくな}（あだ名ラグナ）結構付き合
いが良く、俺と同類で気が合う。

ラグナ「しかし、な。」

ラグナは炎里の体をじろじろと見た。

炎里「なっ・・・。何処じろじろ見てるのよっ！」

ラグナ「炎里さん・・・、ツインテールにした方がいいと思うぞ？
後ニーソにするとか・・・。」

炎里は顔を赤らめて

炎里「バカッ!!!」

ベチン!!!!!!!!!!!!

ラグナ「いだだ！」

黒乃「そんな事するからだろ。そうそう、炎里さん、こいつ本気になつたらセクハラしてきますよ。」

炎里「えええ！？」

ラグナ「バーロ、俺がそんな事するわけないだろ！」

結衣「あれ？この前、有希ちゃんのスカートめくったのどこのどいつだっけ？」

ラグナ「ち、違う！アレは事故で…。」

黒乃「どういう事故にあつたら、あんなことになるんだ？」

そして、炎里はとうとう真っ赤になって

え……」

炎里「そ……そそそ、そう……せ、セクハラ、目的だったのね

ラグナ「え？ええええええ！？」

炎里「殺してやる――！！！！！！」

ツー！！！！！！！！！！！！！！！！！！

!!!

昼休み…。

昼休み、黒乃は一人で図書室へ本を読みに行った。

黒乃「うーす。」

佑香「お、黒さんじゃないか。図書室に来るなんて、珍しいね。」

この人は月野^{つきの}佑香^{ゆうか}。2年A組。図書委員だが、少し自分勝手なところがあるようだ。

黒乃「いや、少し人体に興味があつてね。」

佑香「うわっ…。女の子の体なんか調べてどうするつもり!？」

黒乃「いやいや、そっちじゃなくてね。」

黒乃は笑いながらそう答える。

黒乃「著者『K・S』の『真霊見聞録』って本ある？」

佑香「人に物頼む時は『お願いします。』でしょ？後敬語。」

黒乃「はいはい、お願いします。佑香さん。」

黒乃は面倒くさそうに、敬語で答える。

佑香「よし、じゃあ、保険、3・Bの欄にあるから!」

黒乃は本をとりに行く。

黒乃「これだな…。」

黒乃が本を取ろうとした時、すぐ隣にいた人と手が重なった。

零「おっと…。黒乃奇跡。」

黒乃「虚空…零先輩」

この先輩は3年D組の学級委員長&生徒会副会長。一言で言うと、不気味である。

黒乃「先輩もこの本読みたかつたんすか…?」

零「yes・真と霊、とても興味がありましてね。繰り返し毎日読んでいますよ。お先にどうぞ。。。」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9981c/>

黒奏物語

2011年1月1日02時18分発行